



Q：登園の時に泣いたり、幼稚園から帰ってぐずぐず言ったりしていませんか？

A：6月、幼稚園が始まりました。子供たちは笑顔でにっこり、砂場遊びやザリガニ釣り、それぞれに遊びを見つけて楽しんでいます。今回、長期の休みだったので、幼稚園生活をとても楽しんでいる子供たちの姿が見られ、うれしくなります。

でも、子供たち、疲れていませんか？朝、子供たちをむかえている時、「昨日は、ぐっすり昼寝をしていました」「すぐ、ぐずぐず言うので叱ってしまって」というお話を聞くことができました。進級児にとっては久しぶりの幼稚園で楽しい毎日ですが、保育室が変わったり、担任の先生やクラスの友達が変わり、新しい生活の始まりです。新入園児にとっては、初めてのことばかりです。子供たちは楽しいけれど、緊張感もあり、不安も感じています。「楽しかった！」と、うれしさをお母さんたちに報告しているでしょう。うれしく、楽しいと同時に、疲れています。集団生活、遊びの中でこれからの生きる力の土台となるたくさんのことを体験し、学んでいます。子供たちは、お母さんに、お話を聞いてもらい、ゆったりと受けとめてもらうことで、ほっとひと息です。「～ちゃん大好き！」のお母さんの笑顔で、明日のためのエネルギーをたくさん充電しています。

Q：子供と“手をつなぐ”ということとは？



A：子供たちは、「あっちに行きたい」「あっ、いいもの見つけた」と好奇心旺盛です。でも周りには危険がいっぱい。外出する時は、手をつないでほしいと思います。

手をつなぐということには、とても大事な意味があります。ただ危ないから、安全のためだけではありません。お母さんのあたたかいぬくもりを感じ、息づかいを感じ、同じものを見てお話もできます。手と手をふんわりと合わせてつなぐ (手首をぎゅっとつかむのではなく)、横にいる人と並んで歩くということは、隣の人の息づかいを感じ、呼吸を合わせ、リズムを合わせ、歩調を合わせるということ。自分のペースでどんどん行くだけでなく、人に合わせるということにつながります。何よりも、人と一緒にしたいな、楽しいなと思えるうれしい時間ということです。大好きなお母さんのぬくもりを感じているのです。登降園、散歩、買い物の時も手をつないで、並んで一緒に歩いてみてください。

幼児の時は、お母さんとたくさん手をつなぐことができるすてきな年代です。



『手をつなごう』

手をつないで歩いている時は、同じ目線で、一緒におしゃべりを楽しめるうれしい時間です。幼児期にできる、親子のふれ合いの時間です。たっぷり楽しんでみてくださいね。

< 横谷・岩本 >

